

らねばならぬ、皆は仲よしの友達だ」と秩序と勸奨とを與へれば、彼等は各々その目的を達し得て満足を感じるであらう。其上この間に忍耐、自制、友情などの心情をも養ひ得るであらう。

茲に見逃すべからざる一事がある。それは理性は力としては弱きものであるから、實行を促すとしては本能の力を借らねばならぬと云ふ事これである。父母の教訓、教師の勸説は、幼兒の理性の光を照して、混亂せる要求に秩序を與へ得たとしても、所謂物の道理は分つたとしても、之を實行せしめることは容易ではない。四十五十の大人さへも言ふは易く行ふは難しと嘆ずる。況して四歳五歳の幼兒に對して、言うて聞かせさへすれば直に實行が出来ると思ふのは間違つた考と言はねばならぬ。必ずそこに濫言、勸奨、鼓舞などの本能誘發方法が用ひられねばならない。此處に前に述べた反對本能が大役を勤め

るのである。たゞへば友を憎みつゝある時には、其好愛すべき點を知らしめ、動物を虐待しつゝある時には、其反對の憐憫の本能を誘發するを肝要とする。凡そ人の活動や要求は多ければ多い程が善いのである。強ければ強い程が善いのである。唯それが反對の本能や欲望や、關係ある種々の活動によつて平衡と調和と統制とを保つて居ればよいのである。人間諸種の要求は無數に多い方が豊富な博大な性格を造るに適するのである。貧弱な性格は多くはこの多方の要求を拒斥せられ蹂躪せられた結果である。幼兒は稚き時に貴賤、上下、男女、老幼、古今、東西、野蠻、文明のあらゆる生活を遊戲として經驗し得るの幸福を有する。是等の要求は貴重なる生活の資本である。されば幼兒の要求は之を打碎いてはならぬ、之を尊重し、之に秩序的の満足と自由とを與へねばならぬ。

文字調査について

岡山市立五幼稚園

近來學齡前の幼兒が種々なる機會に於て盛に文字を發表するを認め是等の幼兒が斯く文字を知るに至りた

る原因即ち幼児の文字を知らんとする欲望の程度並に是れに對する父兄の態度を知らんが爲め左の方法によりて調査を行ひたり。

一、文字の種類は五十音、濁音、半濁音の片假名と平假名及び數字(數字漢字を含む)と定む。

二、調査せんとする文字を一字づゝか「カルタ」に書く。

三、「カルタ」は幼児の注意を集むる爲めに其の色と形を數種に別つ。

四、發問の形式を同一にせん爲め或保姆を定めて之れが調査に當らしむ。

五、而して幼児を一名づゝ別室に呼びて靜かに之を讀ましむ。

六、保姆は之れを「イロハ」順又は「アイウエオ」順によらずして一字づゝ或は數文字づゝ幼児をして拾はしめ

又は保姆より示して讀しむ等種々の方法を用ふる事。

かくて第一の調査を終り表の如き結果を收めたり、此中一字も文字を知らざる者少數あり、其原因果して何處にありやとの疑問を生じ茲に更に第二の調査をなすに至りぬ。

即ち岡山市學校醫に依頼して其身體を檢査し一方家庭の狀況及學校の成績に就て調査したるに表の如く實に意外の結果を見たり、幸に何等か參考資料の一端ともならば誠に望外の光榮とす。

幼児文字調査合表

一、幼兒數	六七三人	伯叔父母に習ひしもの	四人	見て知りたるもの	四人
二、既知幼兒數	五六六人	祖父母に習ひしもの	四人	自分で知りたるもの	六九人
百人に付	八四人	友達に習ひしもの	一〇人	四、調査文字	
三、文字を知りたる原因		本を見て知りしもの	一人	I、片假名	四八字
父母に習ひしもの	二二二人	下女に習ひしもの	三人	同上延數	三三三〇四字
兄弟に習ひしもの	二〇〇人	皆なの人に教へられしもの一人		既知文字延數	一一二六五字

百字に付 三五字弱
2、平假名 四八字

同上延數 三三三〇四字
既知文字延數 二二五九字

百字に付 七字弱
3、濁音假名 五〇字
同上延數 三三六五〇字

既知文字延數 三七〇四字
百字に付 一字強

4、數字 二一字
同上延數 一四〇三三字

既知文字延數 二四六八字
百字に付 一八字強

5、漢字 二四字
同上延數 一六一五二字

既知文字延數 四四八九字
百字に付 二八字強

二年保育男 一〇五人
一、幼兒數 一〇〇人

二、既知幼兒數 九五・二四人
百人に付

三、調査文字

1、片假名

同上延數

既知文字延數

百字に付

2、平假名

同上延數

既知文字延數

百字に付

3、濁音假名

同上延數

既知文字延數

百字に付

4、數字

同上延數

既知文字延數

百字に付

5、漢字

同上延數

既知文字延數

百字に付

四八字

五〇四〇字

一九八六字

三九・四字

四八字

五〇四〇字

三九四字

七・八二字

五〇字

五二五〇字

七八三字

一五・五八字

二一字

二二〇五字

五二二字

二二・七八字

二四字

二五二〇字

八九二字

三五・四〇字

二年保育女

一、幼兒數

二、既知幼兒數

百人に付

三、調査文字

1、片假名

同上延數

既知文字延數

百字に付

2、平假名

同上延數

既知文字延數

百字に付

3、濁音假名

同上延數

既知文字延數

百字に付

4、數字

同上延數

既知文字延數

百字に付

六二人

五八人

九三・五五人

四八字

二九七六字

一五四一字

五一・七八字

四八字

二九七六字

四三五字

一四・六二字

五〇字

三一〇〇字

七七九字

二五・一三字

一三〇二字

三四二字

二六・二七字

5、漢字

同上延數 二四字

既知文字延數 一四八八字

百字に付 六一六字

一年保育男 四一・四〇字

一、幼兒數 二八八人

二、既知幼兒數 二四三人

百人に付 八四・三八人

三、調査文字 四八字

I、片假名 一三八二四字

同上延數 四六四六字

既知文字延數 三三・六二字

百字に付 四八字

二、平假名 一三八二四字

同上延數 一〇六五字

既知文字延數 七・七〇字

百字に付 五〇字

3、濁音假名 一四四〇〇字

同上延數 一〇〇八字

既知文字延數 七字

百字に付

4、數字

同上延數 二一字

既知文字延數 六〇四八字

百字に付 一三八〇字

一年保育女 二二・六八字

一、幼兒數 六九一二字

二、既知幼兒數 一九六六字

百人に付 二八・四七字

三、調査文字 二一八八人

I、片假名 一六五人

同上延數 七二・四七人

既知文字延數 四八字

百字に付 四八字

二、平假名 一〇四六四字

同上延數 三〇九二字

既知文字延數 二八・九五字

百字に付 四八字

3、濁音假名 一〇四六四字

同上延數 三六五字

既知文字延數 三・四九字

百字に付

3、濁音假名

同上延數 五〇字

既知文字延數 一〇九〇〇字

百字に付 一一三四字

一年保育男 七・三六字

一、幼兒數 二一字

二、既知幼兒數 四四七八字

百人に付 二二四字

三、調査文字 五字

I、片假名 二四字

同上延數 五二二三字

既知文字延數 一〇一五字

百字に付 一九・四〇字

二、平假名 一〇七人

同上延數 四人

既知文字延數 一〇三人

百字に付

3、濁音假名

同上延數

既知文字延數

總數に對する百分比
八
七・七強
九三・元強
二六・三強

聽力障礙	七	六八弱	父のみのもの
鼻疾	三	六・六強	母のみのもの
咽喉疾病	六七	五〇五弱	養父母のみのもの
2、學業成績			養父のみのもの
上 一人	中 五人	下 三人	養母のみのもの
3、兩親の有無			祖父のみのもの
兩親あるもの		八九人	4、保護者職業

○市社會局で託兒所を新設
 東京市社會局救護課では幼稚園を加味した託兒所を設置せんと目下調査研究中である、現在東京市内の幼稚園は市立のものが十六(麴町三、日本橋四、京橋一、麻布一、赤坂一、四谷一、本郷一、下谷一、本所一、深川二)で二千二百五十六人(男子二百五十五人、女子一人)を收容し、私立のもの七十七(麴町二、神田十、日本橋七、京橋二、芝七、麻布三、赤坂三、四谷一、牛込六、小石川十二、本郷三、下谷七、淺草八、本所三、深川三)で四千九百四十四人(男子二千六百三十四人、女子二千三百十人)を收容してゐる、即ち幼稚園の最も多いのは小石川の十二園で最も少いのはい四谷の二園京橋の三園である、之れは一つは其の區住民の職業及生活状態を表明するものであるが、戸數廣義に比例して幼稚園數の少いのが矢張り本所、深川、下谷、麻布、四谷の如き労働者及貧民階級の多い區である仍つて救護課に於ては是等をも考慮して無料有料二種の託兒所を設置するといふ無料託兒所の方は本所、深川、下谷等の貧民労働者の地を選定し十箇所を設け中流階級以下即ち洋服細民の多い所には費用の低廉な有料幼稚園兼託兒所(數未定)を設置し一家の主婦の内職を助長する計畫である、と。

○兒童の自由畫展覽會について
 あなた方は大自然から淨らかに切り抜かれた小さな正しい心そのもので、だからあなた方の日常の動作はすべて自然の親切な無上命令への義務を遂行してゐる事なので、だからあなた方はその通り大膽で直截で鋭敏です兒童自由畫協會及び本社はそのモットーたる「自由教育」を提唱する上から左の規定のもとに兒童自由畫展覽會を開きあなた方の作品を陳列したいと思ひます。

△募集規定
 一、兒童のあるが儘の自由な感情から描いた畫に限る。手本の畫や雜誌の畫の眞似をしたり人に教へて貰つたりして描いた畫は一切採りません。
 二、用紙はその大小紙質を問はず。また鉛筆で描いても毛筆で描いても水繪具を用ひてもよい。鉛筆の先は太くしすべてはつきり描いて貰ひたいのです。
 三、應募資格は五歳から十三歳までの兒童に限る。
 四、本社内兒童自由畫係宛郵送の事。
 五、締切期日本本月二十五日限り。
 六、入選者には賞状を呈す。
 七、應募畫は入選落選を問はず一切返却せず。
 八、山本 鼎氏 石井鶴三氏 長原孝太郎氏 坂本繁二郎氏 審査員 〇〇〇氏

△展覽會に就て
 一、期日 四月二日より(會場)赤坂留池三會堂
 二、講演會 四月六日開催(會場)及講演者名は追て廣告す
 三、協賛 兒童自由畫協會
 四、主催 東京日日新聞社